

彗星の話

豊島与志雄

青空文庫

むかし、ギリシヤの片田舎かたいなかに、ケメトスという人がいました。小さい時に両親ふたおやを失つて、お祖父じいさんの手で育てられていました。だが、非常な乱暴者で、近所の子供達と喧嘩けんかをしたり、他人の果樹園に忍び込んで、林檎りんごや無花果いちじくの実を盗んだり、野山を駆け廻ったりして、その日その日を遊び暮らしていました。

お祖父さんは非常に心配して、いろいろ言い聞かせましたけれど、ケメトスは耳にも入れませんでした。

空に星がいつぱい輝いてるある晩、お祖父さんが庭を歩いてい

ますと、上から石ころみたいなのが飛んできて、すぐ前に落ちました。拾い上げてみると、それは大きな林檎でした。お祖父さんはびっくりして、林檎が飛んできた方を仰ぎ見ました。すると、その屋根の上にケメトスが、星の光で林檎をかじりながら、ここにこ笑っていました。——そんなことが何度もありました。

「ケメトスの行末ゆくすえが気になる」とお祖父さんは眉まゆをひそめました。

お祖父じいさんは考えたすえ、ある時ケメトスを側に呼んで、今まで隠していたことを話してきかせました。

「ケメトスや、わしの言うことをよく聞かすよ。……お前が生まれる時に、わしは庭に出ていた。空一面に星が輝いてる晩だっ

た。お前が無事に生まれるようにと心で祈りながら、ぼんやり空を見上げていた。すると、一ひととき際強く光つてる星がわしの眼にとまった。しばらくすると、その星がすーっと流れて、瞬またたくまに消え失せてしまった。ちようどその時に、家の中から、お前の産うぶご声が聞こえてきたのだ。

わしには、そのことがいつまでもわすれられない。星が流れるのは、ことに一際輝いてる星が流れるのは、悪い知らせなのだ。お前が生まれる時に星が流れたのは、お前の運命がよくないという知らせだ。

だが、運命というものは、ある点まで自分の手でこしらえ直すことが出来る。わしのように老人になると、そのことがはつきり

わかるのだ。自分の運命を自分の手でよくなしてゆくことが、人間の一番大切な仕事なのだ。

よいか、ケメトスや、お前はあまりよくない運命を荷になつてるよ
うだから、それをよくなそうと努めなければいけない。さもないと、お前の終わりはきつと悪い。わかったか、ケメトスや」

ケメトスは何とも答ええないで、ただうなずいてみせました。お祖父さんのようすがいつになく極めて真剣なのに、すっかり気け圧おされてしまっていました。

けれどもケメトスには、お祖父さんの言ったことがよくわかりませんでした。ただ、自分の生まれた時に星が流れたということだけが、はつきり頭にはいりました。そしてそのことを考えると、

何だか嬉しいうれいような力強いような気がしました。

それから彼は、晩になるとよく星を眺めながました。ことに、屋根の上にあがって、林檎りんごやなんかをかじりながら、星を見るのが愉快でした。ぴかっと光って長い尾を引いて、空の奥へ消えてゆく流れ星を見つけると、喜んで飛び上がりました。

「自分もあんなに空が飛べたら……」と彼は考えました。

しかし空を飛ぶのは容易なことではありませんでした。それでケメトスは、高い所へ飛び上がったり飛び下りたりして、せめてもの心やりをしたいと思います。飛び上がる方はむずかしいけれど、飛び下りる方はさほどでもありませんでした。

ケメトスは一生懸命になって、高い所から飛び下りる練習をい

たしました。野山を駆け廻ったり、木によじ登ったり、いたずらばかりしていたものですから、大変身軽になっていました。一年もたつうちには、ちよつとした呼こきゆう吸ゆうでもって、屋根や木の枝やその他の高い所から、わけなく飛び下りられるようになりました。「ケメトスは鳥の生れ変わりだ」などと言って、近所の人達は驚いていました。彼はますます得意になって、その技を練習いたしました。

二

ケメトスの評判は次第しだいに四方へ広がって、ついにその土地の王

様の耳にはいりました。王様は珍しいことに思われて、人を遣わしてケメトスを招かれました。

ケメトスがいよいよ都へ出発する時になって、お祖父さんは彼を側に呼んで言いました。

「とにかく一つの技能に秀でるといふことは、それが不正なものでない限り、至つてよいことだ。それでわしは今まで、お前が一生懸命になつてるのを黙って見ていた。けれどよく考えると、わしはやはりお前の終わりが気にかかる。しかし今更もう仕方はない。ただ何事も控え目にやるがよい。自分の力以上のことをしてはいけない。くれぐれも高慢な心を起こさないようにね、ケメトスや」

ケメトスはお祖父さんの首に抱きつきました。お祖父さんは黙って涙を流しました。ケメトスはその涙を拭いてやって、それから、きつと名前を揚げると誓って、勇んで都へ上りました。

国王はケメトスがまだ十五六歳の若者であるのを見て、案外な気がされました。しかしその技をためしてみられると、初めて舌を捲いて驚かれました。十尺二十尺ほどもいきなり飛び上がるばかりでなく、飛び下りる方になると、七八十尺の高い所からでも平気で飛んで、すつくとつつ立ってるのです。

それは色々の運動が大変盛んな時でした。でケメトスは、飛び方の長として王様から抱えられ、宮殿のうちの立派な部屋に住むこととなりました。

ケメトスの評判が諸方に響き渡ると、彼と技をくらべようという者がたくさん出て来ました。しかし誰も彼に及ぶ者はありませんでした。飛び上がる方ももちろんありませんでしたが、飛び下りる方になると、大抵の者は足を挫いたり腰の骨を折ったりして、逃げ戻りました。

ケメトスはますますその技を磨くと共に、夜の空の流れ星を眺めては、お祖父さんの言葉を思い出して、一生一代の晴業をして名を上げたいと考えました。

ある時王様は諸国の王を招かれて、盛んな宴を催されました。そして御自慢のケメトスを召されて、技を見せてくれと頼まれました。諸国の王様達も、かねがねケメトスの評判を聞いていられ

ますので、一緒に所望されました。

「いよいよ時期が来た」とケメトスは考えました。

宮殿の横に、高さ三百尺しやくの塔が立っていました。大きな河の流れや森を見下ろして、空高くそびえた、実に見事な塔でした。ケメトスはその塔の頂いただきから、夜、炬たいまつ火を手に持って、飛び下りると言い出しました。

王様はじめ人々はびっくりしました。いくらケメトスが身みが軽だからといって、三百尺の上から飛び下りられるわけはありません。そんなことをしたら体が粉みじんになると言つて、人々は口をそろえて止めました。しかしケメトスは無理に言い張りました。彼の言うままに任せるの外はありませんでした。

三

その晩になると、大変な騒ぎとなりました。国王はじめ諸国の王様達は、塔の近くの河原かわらに席を設けられ、その他の者はあたりを取り巻き、都の人々や近在の人達まで出て来て、塔が見える限りの土地は見物人で埋まりました。ケメトスが飛び下りる塔の下場所には、もうせんが敷きつめられ、まわりにはかがりびが焚たかれました。

ケメトスは塔の頂に上って、空の星に向かって長い間祈りを捧げました。お祖父じいさんから聞かされたことが、自分の運命が、今

はつきりとわかる気がしました。やがて彼は右手に炬火を持って、塔の頂に現われました。それを見て四方から、雷らいのような喝采かつさいのどよめきが起こりました。塔の上から眺ながめると、一面に茫ぼうとした星明りでした。大河たいがの流れがえんえんと続いており、所々に森がこんもりと茂り、宮殿からずっと都の町が屋根並やねなみを揃そろえ、その間々は、見渡す限り見物人で埋まっていました。

ケメトスは、空の星に向かって最後にも一度心で祈り、それから、右手の炬火たいまつを三度輪に振って、飛び下りる合図をしました。どつと歓呼かんこの聲が響いて、あとはしいんと静まり返りました。ケメトスは右手に高く炬火かざしながら、大河の深い淵ふちへ向かって力いっぱい飛びました。

人々は息を凝らして、塔から離れたケメトスを見つめました。

ところがケメトスの体は、塔の下のもうせんの上へ落ちて来ないで、あたかも羽が生えて飛ぶように、すつと空を掠めて、炬火の光を長く尾に引きながら、程離れた大河の淵へ落ちこんで、そのまま見えなくなってしまうました。あまりに見事なのとあまりに意外なので、人々はしばらく茫然としていました。

やがてその驚きが静まると、新たな騒ぎが起きました。王様の命令によつて、人々は急いで舟を河に出して、ケメトスが陥つた淵を探し始めました。その搜索は三四日間続きました。しかしケメトスはどこにも見出されませんでした。ケメトスは名前だけを残して、それきり消え失せてしまいました。

その報知しらせを受けたお祖父じいさんは、一言も口をきかずに、ただ悲しげにうなずきました。

それから後、彗ほうきぼし星が空に出るのを見ると、土地の人達は、「ケメトスが飛んでる！」といつも言いました。実際、ケメトスが炬火をかざして塔から河の淵へ飛んだ有ありさま様は、空に出る彗星とそっくりだったそうです。

青空文庫情報

底本：「豊島与志雄童話集」海鳥社

1990（平成2）年11月27日第1刷発行

入力：kompass

校正：門田裕志、小林繁雄

2006年4月28日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

彗星の話

豊島与志雄

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>